

島根原子力発電所温排水影響調査 — I

服部守男・森脇晋平

島根原子力発電所の運転にともなう温排水が周辺海域の漁場環境に及ぼす影響を把握するための調査である。

調査の概要

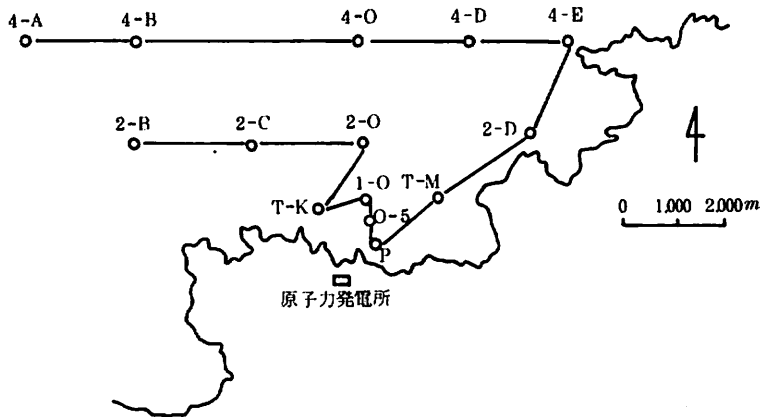
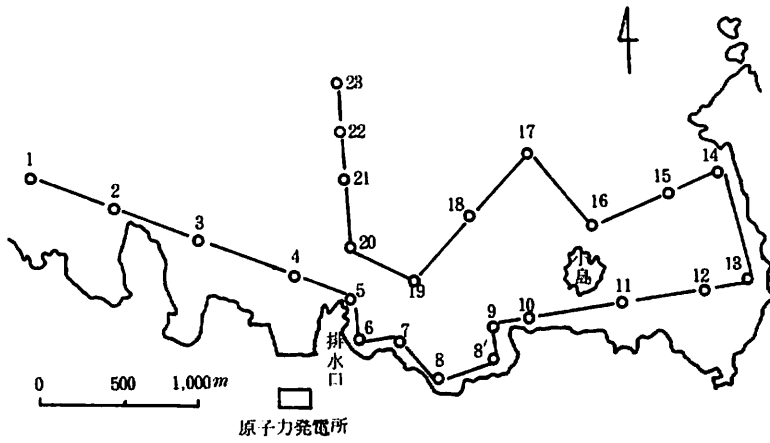
海況調査は調査船やそしま（9.4トン）にて観測を行ない、水温、塩素量、色度、濁度、潮流、D・O、pH、プランクトン採集等を実施した。生物調査は岩ノリ生育状況調査、排水口附近魚類生態調査、潮間帯生物調査を行った。

調査の結果

調査地点図及び水温・塩素量の結果を図-1及び付表1～4に示した。

また、水温の調査結果の要約を以下に述べる。

- (i) 定点Pは排水口から北東100mの位置で、排水口に最も近い場所である。従って毎回上層で高い水温が観測された。これは温排水の影響と思われる。
- (ii) 定点0-5は排水口から北750mの位置にある。6月7日、表層で温排水の影響と思われる約1℃程高い水温が観測された。しかし、これ以外は自然水温であった。
- (iii) 定点1-0は排水口から北1,250mの位置にある。0-5点の表層が高かった日にこの定点の表層もやや高い水温が観測された。これは温排水が北側に拡散したためと考えられる。
- (iiii) 定点T-Kは排水口から北西1,800mの位置にある。やや高い水温が9月6日に観測された。これは風や潮流によって当日拡散が西側に寄ったこと等も考えられる。
- (v) 定点T-Mは排水口から北東1,850mの位置にある。この場所は平常時は自然水温と考えられるが、上層でわずかに高い水温が観測される時もあった。
- (vi) 定点4-B、4-Aは排水口から5,700、7,250mの位置にある。ここは観測定点中排水口に最も遠い場所である。9月6日にやや高い水温が観測された。水質分析の結果この水塊は高水温低鹹水であり、従って温排水との異質の水塊であった。このような現象は51年度にも見受けられた。
- (vii) 上記以外の定点では特別変わったことは認められなかった。



付図1 海況調査地点

沖合定線 2-B~4-A の 14 点

沿岸定線 1~23 の 24 点